

# はじめに

「学びて思はざれば則ち<sup>くら</sup>罔し。思ひて学ばざれば則ち<sup>あや</sup>殆ふし。」

繰り返し<sup>そらん</sup>誦じた論語の一つです。この短い言葉から、我々は学びの本質について思惟させられます。人は、多くのことを学び知識を得ると、視野が広がり、世の中のことがよく分かるようになります。しかし、それだけでは十分とは言えません。学んだことをどう生かすか、どう役立てるかということを自分自身で考えなければ、本当に理解したことにはならないのです。そして、2500年以上も前から語り継がれる学びの本質は、実はこれからの時代に求められる力とあまり変わらないことに気付きます。

平成27年8月に、中央教育審議会の教育課程企画特別部会から、次期学習指導要領を見据えた「論点整理」が発表されました。そして現在、「何を知っているか」だけでなく、「それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」までを視野に入れた学習指導要領等の構造的な見直しが行われています。アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、カリキュラムマネジメントの充実、小学校からの英語教育の充実、道徳教育の充実等のキーワードから、これからの教育が目指す具体像が見えてきつつあります。

奈良県においても、教育振興大綱の策定が進んでいます。大綱案では、本県教育の方向性ととも、教育体制の在り方や教育課題への対応方法等を示しています。特に、学年間の連携や異校種間の接続を意識した「学びの縦の連続性」や、家庭や地域、大学等の関係機関とも連携した「学びの横の連続性」を重視しています。また、子どもたちの学びの広がりや深まりを目指し、教職員の研修体制の充実にも重きを置いています。教職員が意欲をもって研修、研究に取り組むことは、本県の子どもの学び意欲の向上につながると考えています。

当教育研究所では、教職員一人一人の資質・能力の向上を支援するため、多様なニーズに合った研修を実施しています。また、複雑化する教育課題の解決に資するデータの収集や教育現場との協力による先駆的な実践研究にも取り組んでいます。これらの取組の一つとして、本年度も当教育研究所における指導主事等の研究を「研究紀要」に、奈良県教育委員会指定研究員及び奈良県立教育研究所長期研修員によるプロジェクト研究・個人研究を「研究集録」にまとめました。教育課題の解決に迫った研究成果を日々の教育活動に御活用いただくとともに、今後の研究の進展のために御意見をいただければ幸いです。

なお、本冊子の掲載内容は、紙幅の関係上、各研究論文の要約となっています。更に詳細な内容につきましては、当教育研究所のWebページにて公開しています「平成27年度研究紀要・研究集録」及び当教育研究所図書閲覧室に保管しています「研究報告書」を御覧ください。

末筆となりましたが、指定研究員及び長期研修員の皆様をはじめ、研究を進めるに当たり多大な御協力と御支援を賜りました各関係校（園）の教職員の方々に心よりお礼を申し上げます。

平成28年3月

奈良県立教育研究所

所長 吉田 育弘